

## X 史料編集事業

### 1. 事業概要

#### (1) 史料編集班の沿革

復帰前の昭和 42 年（1967）琉球政府立沖縄史料編集所が創設され、復帰とともに沖縄県沖縄史料編集所と改称。昭和 61 年（1986）行政改革により県立図書館に併合され、沖縄県立図書館史料編集室と改組、平成 7 年（1995）沖縄県公文書館の設置に伴い移転、翌 8 年、史料編集業務が教育庁文化課所管の委託業務となり財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部（後に公文書管理部）史料編集室となる。平成 19 年（2007）指定管理者制度導入に伴い財団法人沖縄県文化振興会史料編集室と改名、平成 23 年（2011）組織改編により教育庁直轄となり、沖縄県教育庁文化財課史料編集班となる。

#### (2) 歴代宝案の編集・刊行

『歴代宝案』は、中・近世のおよそ 500 年にわたる外交文書集で、歴大かつ難解な漢文史料であるが、沖縄の対外通交貿易史および外交交渉史を解明するうえで第一級の史料であり、東アジア世界の動向をも知りうる貴重な史料である。歴代宝案編集事業の目的は、本文を校訂し、訳注本を作成して、これを利用しやすい形に編集することによって、今後の歴史研究の進展に役立て、あわせて一般への普及を図り、国際化時代における県勢発展の基礎資料として活用できるようにすること、にある。

沖縄県教育委員会では、平成元年度（1989）から『歴代宝案』の編集事業に着手し、平成 3 年度（1992）から刊行を開始した。校訂本は諸本を校合し異同を注記した本を 15 冊、訳注本は校訂本の漢文を全文読み下し文に改め、語注やルビを付し、『歴代宝案』の理解を補完するもので同じく 15 冊、計 30 冊の刊行を予定している。これまでに校訂本 13 冊、訳注本 7 冊の合計 20 冊、歴代宝案編集参考資料 12 冊を刊行した。平成 24 年度から沖縄振興特別推進交付金による「琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業」として採択され、歴代宝案の編集刊行が大きく推進される見通しとなった。

#### (3) 沖縄県教育委員会と中国第一歴史档案馆との「協議書」に基づく交流事業

歴代宝案の編集作業においては、国内外の関連史料も参照することが必要不可欠である。中国に残る膨大な琉球関係資料を活用するため、平成 3 年（1991）3 月、「清代の档案マイクロフィルムの相互交換に関する覚書」の調印が行われた。その後「覚書」を「協議書」と改め、平成 21 年には五度目の調印が交わされた。これまで 10 回にわたってマイクロフィルムの提供があり、総計は 3,323 件、1 万 1,571 コマにのぼる。また、沖縄と北京で交互にシンポジウムを開催し、これまでに 10 回開催され、『琉球・中国交渉史に関するシンポジウム論文集』9 冊を刊行した。毎年、档案馆から参考人として研究者 2 名を招聘し、延べ 42 人が報告を行った。平成 17 年度（2005）から『中琉歴史関係档案』の出版委託を行い、24 冊を刊行した。

#### (4) 新沖縄県史の編集・刊行

新沖縄県史編集事業は平成 5 年度（1993）にスタートした。先に刊行した「沖縄県史」は明治の琉球処分から沖縄戦までを取り扱った近代史であったが、「新沖縄県史」は、先史から現代までの全時代と自然環境等を対象とした体系的な歴史書を編纂し、沖縄県の「正史」として、沖縄の歴史認識、文化意識の一層の活性化を促すことを目的とする。本事業は沖縄県の教育主要施策に位置づけられている。

平成 6 年（1994）、「新沖縄県史編集検討委員会」のもとで「新沖縄県史編集基本計画」がまとめられたが、その後平成 9 年（1997）「新沖縄県史編集委員会」が設置されて基本計画の見直しが行われ、平成 10 年（1998）「新沖縄県史編集基本計画」が策定された。平成 22 年（2010）、再び基本計画の見直しが諮問され、平成 24 年（2012）には新たな「基本計画」が策定された。

これまでに、「沖縄県史各論編」を 4 冊、「沖縄県史資料編」を 23 冊、「沖縄県史図説編」を 1 冊、「県史ビジュアル版」を 13 冊刊行した。その他「沖縄県史研究叢書」、「概説 沖縄の歴史と文化」、「沖縄県史だより」や各種目録、紀要などを刊行するとともに、各種の資料収集調査を実施

している。今後は、沖縄県史の基礎資料ともなる「資料編」の刊行に平行して、各テーマによる「各論編」の編集・刊行を進めている。

## 2. 主な活動

### (1) 委員会の開催及び編集・刊行活動

新沖縄県史編集委員会（1回）・専門部会（自然環境3回、沖縄戦4回、女性史3回）、刊行計画検討専門部会（1回）、歴代宝案編集委員会及び作業部会（3回）など計15回の委員会及び専門部会を開催した。

また『歴代宝案 校訂本 第14冊』『歴代宝案 訳注本 第5冊』『歴代宝案編集参考資料12 歴代宝案訳注本第5冊語注一覧表』『歴代宝案簡介』（繁体字・簡体字〔歴代宝案の葉中国語版〕）『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（三）』『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（四）』『中琉歴史関係档案 嘉慶朝（五）』『沖縄史料編集紀要』第36号、『沖縄県史だより』22号などを編集・刊行した。

### (2) 史料調査収集・交流事業（史料編集事業）

#### ①新聞照合調査

調査目的：「県史資料編 自然環境新聞集成（仮）」掲載記事の不明部分に関する照合調査

調査期間：平成25年3月26日（火）～3月29日（金）

調査場所：国立国会図書館東京本館

調査員：城間恒宏（指導主事）、吉田敬（指導主事）

概要：資料編「自然環境新聞集成」に掲載する明治・大正期の琉球新報記事の不明部分を原紙と照合し確認する。

#### ②交流事業（歴代宝案）

##### 1) 中国第一歴史档案館より参考人招聘

招聘目的：歴代宝案の編集作業に資するため、歴代宝案編集委員会において、中国第一歴史档案館の研究者・専門家の意見を聴取する。

招聘期間：平成24年9月12日（水）～18日（火）

概要：董福芝（離退休幹部処処長）・李雪艷（弁公室主任科員）を招聘し、編集委員会での参考意見報告のほか、沖縄県立博物館・美術館、首里城などを視察した。

##### 2) 第10回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム開催（於：北京、平成24年10月29日）

###### ○沖縄側参加者

大城浩（県教育長）・島袋洋（文化財課副参事）・萩尾俊章（班長）・外間みどり（主任専門員）・野村直美（指導主事）

###### ○発表論題と発表者

謝必震（福建師範大学中琉関係研究所教授）「清宮档案から中琉往来の関連制度を見る」

上里賢一（琉球大学名誉教授）「華夷秩序と琉球の自己認識」

赤嶺守（琉球大学教授）「歴代宝案編集事業と档案史料」

張小銳（中国第一歴史档案館編研処副所長）「中琉歴史関係档案の編纂とその方針」

##### 3) 琉球関係資料集の出版委託

中国第一歴史档案館が所蔵する琉球関係史料を年代順に整理し、内容提要を付して出版する。

2006年（平成18）からスタートした事業で、これまでに24冊を出版した。

### (3) 琉球王国の交流史に関する史料調査収集事業（沖縄振興特別推進交付金事業）

#### ①国内調査

##### 1) 琉球王国の交流史に関する国内史料調査①

調査目的：『歴代宝案』校訂本・訳注本編集に資するため

調査期間：平成24年11月26日（月）～11月29日（木）

調査場所：東京大学史料編纂所画像史料解析センター

調査員：漢那敬子（主幹）・野村直美（指導主事）・帆刈浩之（史料編集嘱託員）・  
石原清香（史料編集嘱託員）

概要：東大史料編纂所が収集した「中国第一歴史档案館所蔵日本関係档案画像デジタル」資料 3000  
件余の中から当班未収集の琉球関係档案を抽出し、収集する。

#### 2) 琉球王国の交流史に関する国内史料調査②

調査目的：『歴代宝案』校訂本・訳注本編集に資するため

調査期間：平成 25 年 3 月 25 日（月）～3 月 29 日（金）

調査場所：東京大学史料編纂所画像史料解析センター

調査員：野村直美（指導主事）

概要：第 1 回目の国内史料調査の継続調査

#### 3) 琉球王国の交流史に関する国内史料調査③

調査目的：琉球王国の交流史に関する史料調査

調査期間：平成 25 年 3 月 25 日（月）～3 月 27 日（水）

調査場所：法政大学沖縄文化研究所

調査員：漢那敬子（主幹）

概要：久米村（魏氏）士族で中国への存留通事などを輩出した楚南家の文書のうち「外交文書」  
と分類された一群の史料を閲覧、調査した。

#### 4) 琉球王国の交流史に関する国内史料調査④

調査目的：琉球王国の交流史に関する史料調査

調査期間：平成 25 年 3 月 27 日（水）～3 月 29 日（金）

調査場所：国立国会図書館東京本館

調査員：萩尾俊章（班長）

概要：国立国会図書館でのみ閲覧が許可されているもの、原史料を閲覧しないと得られない情報  
（絵図類）などもある。今回はそれらのうち、絵図を中心に閲覧調査を行った。

### ②国外調査

#### 1) 琉球王国の交流史に関する国外史料調査（台湾）

調査目的：『歴代宝案』校訂本・訳注本編集に資するため

調査期間：平成 24 年 12 月 22 日（土）～12 月 27 日（木）

調査場所：国立故宮博物院図書文献館、国立台湾大学図書館

調査員：漢那敬子（主幹）、野村直美（指導主事）、帆刈浩之（史料編集嘱託員）、  
赤嶺守・麻生伸一・前田舟子（調査員）

概要：①国立故宮博物院図書文献館の貴重資料デジタルデータ検索システム「清代宮中档奏摺及  
軍機處档摺全文影像資料庫」を利用して、琉球関係档案の抽出及び複写を行い、さらに  
『歴代宝案』に記載のある人物のうち、乾隆年間に絞ってその伝記情報を「清代史館档  
伝包伝稿目録索引」から検索し複写作業を行った。

②国立台湾大学図書館で、歴代宝案「県図本」で確認された行間朱書き部分が「台湾大学  
図書館本」ではどうなっているのか、現物を閲覧し影印本との照合作業を行った。

### (4) 歴史資料のデジタル化（沖縄振興特別推進交付金事業）

①琉球関係档案史料のデジタル化・テキスト化（清代中琉関係档案三編 794 枚）

②琉球王国交流史関係史料のデジタル化（江戸上り資料など 1171 枚）

### (5) 諸外国との交流に関する歴史史料の編集・刊行（ベッテルハイム日記翻訳）

（沖縄振興特別推進交付金事業）

『沖縄県史 資料編 21 The Journal and Official Correspondence of Bernard Jean Bettelheim  
1845-54 Part I (1845-51)』の翻訳（全 624 頁中、358 頁の翻訳）